

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701331
法人名	医療法人香林会
事業所名	グループホーム 螢の郷 (ユニット名 西 ユニット)
所在地	北九州市八幡西区香月西3丁目10-17
自己評価作成日	平成23年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

螢の郷は文字どおり、近くを流れる黒川で、季節になるとたくさんの螢をみることができます。毎年入居者と家族とスタッフで、美しく優雅に舞う螢を観賞しています。螢の郷は、開業以来9年の月日がたち、入居者も高齢化し、要介護度も重度化して、以前よりも多くの介護を必要とするようになってきています。そのなかで、職員みんなで入居者の尊厳、その人らしい生活を考えケアにあたっている。また、職員も休み希望をとれるようにして、笑顔で介護にあたるように取り組んでいる。職員も入居者も笑顔がみられ、笑い声が聞こえてくる・・・それが螢の郷です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は以前より「地域への貢献」「地域に根ざした医療」に熱心に取り組んで来ており、9年前に隣接する介護老人保健施設と共に開設されたグループホームである。開設から9年が経過し、利用者も徐々に心身機能の低下が進み、より多くの介護が必要となってくる中、管理者・職員が心を一つにして利用者本位のケアの実践に向け取り組んでいるホームである。看取りについても、ホームでできる最善の方法で、利用者の人生の最期の一部分に関わっていきたいという思いを全職員で共有し、支援に取り組んでいる。地域福祉を推進する最前線の立場として、今後益々の活躍が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をつくり、ユニットに掲示している。	各ユニット毎に職員で作上げた「利用者本位」「利用者の目線に合わせる」「安心な居場所作り」「生活のパートナー」「地域とのネットワーク作り」等の理念がある。2ヶ月毎の勉強会で理念に基づいた達成項目作成および前回の評価作業をするなかで理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターの「ふれ合い昼食会」に参加している。また、毎年バザーに出店している。市民センターのクラブに三味線や民謡、踊りを螢の郷で披露していただいている。	小学校の運動会や地域の夏祭りに参加したり、近隣の農家からお米を購入したり、近くのスーパーへの買物や公園散歩に出かけ近隣の方達と挨拶を交わし、日常的に交流をするよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	していない(御利用者の方と地域に出て行くことで、認知症があっても適切な支援があれば普通に生活できるということを実践しているが、地域の高齢者に役に立っているとは言えない。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事故の報告及び対策、その後の変化、外出の状況、行事などを報告している。介護の業界以外の方からの意見やアドバイスはとても、参考になり、「職場だけの常識」に反省することがよくある。	2ヶ月毎に開催され、運営報告、事故報告、行事、研修報告等行っている。地域との交流について出席者から「市民センターの各クラブ活動の発表の場としてホームを提供してはどうか」の提案があり実行される等サービス向上に活かしているが、利用者・家族の参加が得られていない。	利用者・家族の参加が得られる運営推進会議の開催について、日時や案内の工夫等を今一度検討する機会を持つことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が構成メンバーに入っている。空室状況のやりとりはしている。	制度上の疑問点の質問や事故報告等、市町村担当者とは連絡を密に取り、顔馴染みの関係となっている。また、グループホーム協議会に所属し、市町村担当者との意見交換会に出席し、現状や現場の思いを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行った職員が、勉強会で発表し伝達講習をしている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止について職員全員が学ぶ機会を設け理解を深めている。玄関の施錠は夜間のみで、チャイムと職員の見守りにて対応している。外に出ようとする方には一緒に散歩に出かけたり、声かけにより気分を変えてみるような工夫をしたり、抑圧感の無い生活を支援するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行った職員が、勉強会で発表し伝達講習をしている。カンファなどで日常の場面をふりかえり、知らないうちに虐待につながっていないか話をあつたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に行った職員が伝達講習はしているが、あまり身近ではないため詳細は把握できていないと思う。相談を受けた場合は関係機関を紹介している。	外部研修参加および伝達講習にて職員全員が学ぶ機会を確保している。現在、制度を利用している人は居ないが、常にキーパーソンとの連携を密にしている。必要に応じて相談センターへの紹介や、制度利用の説明等の支援ができる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族と十分に話をするようにしている。入居後もこちらから声をかけて、不安や疑問がないかを尋ねるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者との日常会話のなかで苦情、不満を聴くようにしている。訴えがない方は観察を密に行い、「嫌なこと」、「望んでいること」を察するように努めている。	運営推進会議の議事録を全家族へ送付し面会時に意見を求めたり、利用者、家族等が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。事故報告についてもその経緯、今後の対応等を丁寧に説明謝罪し、事故防止に努めると共に意識を新たにしてサービス向上に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員が気兼ねせずに意見を言えるような環境づくりに心がけている。	職員より勤務時間帯の変更の提案があり実践されたことがある。また、家族との食事会も利用者の重度化に伴いデザートバイキングに変更する提案を実行し利用者・家族等から好評を得たこともあり、職員の意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	委員会で各自役割を持って活動している。労働時間は定時を基本として、休み希望をとりいれた勤務をつくり、無理なく勤務できるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用は、性別や年齢を理由に採用対象から外していない。男性職員5名、軽度障害者2名も働いている。希望休もとれ、社会参加や自己実現もできる環境にある。	採用にあたっては心身の健康が重視されており、性別や年齢、資格を理由に排除されることはなく、30歳から65歳までの方がそれぞれの能力を存分に発揮しながら生き生きと働いている。自己都合や資格取得に向けての休日の調整にも配慮しており、社会参加や自己実現もできる体制にある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	二ヶ月に一度、勉強会で意識をして話題にしている。日常の業務で、入居者に対する人権を尊重しながら、取り組むようにしている。	勉強会では理念「利用者の安心と尊厳」に添った達成項目の作成や前回の達成項目について評価を行っている。「人生の先輩」への敬意や「その人らしい尊厳ある姿」の尊重について職員全員が意識を一つにしてケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた研修計画をたて、経験年数に応じた研修を受ける機会をつくっている。月に2、3人は勤務として研修に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っており、研修会で他のグループホーム職員と交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者もしくは、ケアマネージャーが御本人と話しをするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と十分に話をするようにしている。入居後もこちらから声をかけて、不安や疑問がないかを尋ねるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当GHIにすぐ入居できない場合は、周辺のGHを紹介している。もしくは、デイサービス、デイケア、老人保健施設などの情報も、提供している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者の方と共に過ごす時間を大切にしている。御利用者を一人の人間として、みつめて、接していくようにしている。共に生活するという意識を、意識できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者へ、日々のことをお伝えし意見をきいて、ご本人が自分らしさをだしながら生活できる様に援助していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所された際は、ゆっくりと過ごしていただけるように、場所を提供したり配慮している。	馴染みの美容室への送迎支援や、葬儀出席のための斎場送迎の支援、身内の集まり参加のための送迎支援等をしており、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった方同士の関係を維持するために、食事の席やリビングでの席を近くにするなどの配慮を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護に関する相談などには応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるようにカンファなどで検討している。	利用者との日々の関わりの中で、一人ひとりの表情や行動から思いや意向を把握し、職員間で確認し合っている。困難な場合は、家族から利用者の趣味や思いを聞き取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しくアセスメントを記入し、御家族には御本人のプロフィールを書いていただき生活歴の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	療養記録に毎日記録し、ミニカンファで情報交換している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族が記入した生活歴をいかし介護に反映するように努力している。また、御家族にプランの説明し、意向を聴くようにしている。	担当制を取り入れており、担当者が利用者の課題や問題点を抽出して毎月1回のミニカンファレンスで検討して原案を作成している。基本的には3ヶ月毎の見直しを行っているが、原案に対して家族から意見をもらい修正することもあり、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノートで情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に何も行っていない		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室やスーパーを活用している程度		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院だが、入居に関して、主治医の変更の必要は無い。御家族に説明している。	本人・家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。母体法人の医療機関へは職員が受診の同行支援をしている。その他の病院への受診は家族対応を基本としている。困難な場合は職員が受診に同行して、その後、家族と職員間で情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護婦に、細かいことでも報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が主治医と連絡を密にとり、早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、主治医と話し合いをしながら当グループホームでできるところまでは、対応している。最期の看取りまでは行っていない。状態に応じて最終的には入院になる。ここは、御家族にも十分に説明している。	重度化や終末期については、入居時に話し合っで利用者、家族の意向を伺っている。現時点でのホームの方針は最期の看取りは行っていないが、最終段階としてどこまでが対応できるのかを「看取りに関する指針」に明記し、関係機関と共有認識ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを各ユニットに置き、勉強会のときにテーマとしてとりあげるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を2回/年実施している。色々な場面を想定して実施している。	年2回(消防署員の立会いは1回)の避難訓練を実施している。ボタン1つで近隣の法人の職員(9名)に繋がる通報システムが設置されている。災害マニュアルを作成しており、出火場所に応じた訓練、誘導や器具の扱い、備蓄について職員間での把握ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じた声かけを行っている。職員同士で、良くない声かけには、注意するようにしている。	日々の生活の中で、利用者の行動を制限するような言葉かけをしないように職員間で注意し合っている。入居者同士で楽しんでいるとき等のトイレ誘導ではさりげなく声をかけたり、一人ひとりの誇りを大切にしたい対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者の、表情や様子を観察しながら、声かけをおこない、本人の希望きいて介護している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何名かの御利用者は、自分で居室に戻り過ぎたり、自分のペースで過ごすように援助している。要介護度重度のかたは、体に無理のないように居室で過ごすなど、声掛けを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣のときにご本人に、衣類を選んでいただいている。理美容も、髪型や長さなど、本人や家族の意見を聴くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物前に、好きなものや食べたいものを聴いて、メニューに取り入れている。	希望者を募り一緒に食材の買物に出かけたり、テーブル拭きや盛り付け、野菜切り等利用者の能力に応じて職員と共に食事の準備をしている。食前体操をしている。食の進み具合等に気配りをしながら職員と利用者が一緒に同じメニューを楽しみ和やかな食卓となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは職員全員で、栄養のバランスを考えて、メニューを作っている。水分は、食事、おやつ、入浴後、夕食後に摂取している。摂取量のすくないときは、ゼリー、プリンなどで、補っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを実施している。できるだけ、本人にやっていただき、できないところを介助している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や利尿剤の把握などを行い、なるべく失禁が少なくなるようにしている。パット類も検討し、その方の状態にあったものを用意している。	排泄のパターンを把握し、日中はトイレでの排泄誘導しているが、深夜はポータブルトイレを利用する人もいる。布パンツ、安心パンツ、パットなど一人ひとりの身体状況や習慣に応じた個別支援を行い、失禁予防に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前と夕食前、食前体操を行っている。また、メニューのなかに、食物繊維を多く含んだものを取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の枠は決めている。その中で、御本人に声掛けを行いなるべく希望に沿うようにしている。	毎日入浴ができるように準備している。本人の体調や気分に応じて一日に4、5名の入浴とし、各利用者が一週間に3回は入浴できるよう支援している。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を取り入れ、入浴を楽しめるよう工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境整備(室温や、採光など)を行う。寝具類もそのつど本人に合うように調整している。(毛布、タオルケット、肌布団など多くの種類を準備している。)		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服薬の説明をいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事もりつけ、ネギを切るなど、洗濯物、ゴミ捨てなど、その方にあった役割を担っていただいている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をとりいれながら4～5人で外出をしている。	気候や本人の体調に考慮しながら近所の公園への散歩やスーパーへの買物、ホームの敷地内での日光浴等できるだけ戸外で楽しめる機会が持てるように支援している。初詣、桜やチューリップ鑑賞、神社詣、花火大会見学、外食等の行事予定を組み出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、おやつを買ったり、職員が食材をスーパーに買いに行くとともに、お菓子を買ってきたりすることもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、手紙が御家族から届くことがある。誕生日に遠くにすむ家族からプレゼントが届く方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽射しは、レースのカーテンや障子でコントロールしている。玄関、リビング、手洗い場などに、季節の花を飾ることもある。	広いガラス窓から中庭の植木等を見ることができる。訪問時は、100歳を迎えられた利用者のお祝いに戴いた生花が飾られていた。明るく広いリビングにはソファやテーブルがあり、利用者がそれぞれにゆったりと過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフロアに台所、食堂、リビングがあるのでそれぞれ好みの場所で過ごすことができる。日当たりのよい場所でうたたねをしたり、台所で料理のもりつけをする方、洗濯物たたみをする方などもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに使っていた家具を自宅から持参してもらっている。また、御家族からその家具についての、御本人エピソードなども聴くようにしている。	各部屋の障子張りの窓から、明るい日差しが差し込んでいる。趣味の茶道具や仏壇を置いている部屋、使い慣れた椅子等が持ち込まれ、生活の継続性を大切にされた支援が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各御利用者それぞれが出来ないところ、わからないところを状態にあわせて介助している。		